



■診療部長(腎臓内科・リウマチ科) 太田 康介

※本年4月より専門外来が新設されました。

はじめに

病気はいろいろとありますが、内科疾患のなかにリウマチ・膠原病という分野があります。これまでもこれら疾患を当院で診療していましたが今年の4月から「リウマチ科」を開設し、

ご紹介頂いた患者さんや入院患者さんの診療に当たっています。

疾患の説明

リウマチ科では、関節リウマチ、膠原病および関連した疾患の診断と内科的治療を行います。

関節リウマチというと、どんなことを思い浮かべられるでしょうか。「関節がいつも痛くてつらい」「指や足が変形して不自由になって、元に戻らない」「家族、知人にいるが、大変そう」といったイメージがいまだに強いかもしれません。関節リウマチは、一言でいうなら「関節が火事を起こしている」状態です(図1)。関節以外では皮膚、肺、心臓などいくつかの部位(臓器)に症状が出ます。免疫の異常により関節などの炎症がおこりますが、現在では原因・病態がかなり解明され治療へ反映されています。

関節リウマチは、しばしば発症してから2~3年で大きく悪化するため、より早期に発見して治療を行ってゆくことが重要です。治療はこの2~30年で大きく進歩し、多くの患者さんが良い状態で過ごせるようになってきました(図1)。当科では、現在の標準的な治療法にて、抗リウマチ薬、副腎皮質ステロイドなどを用い、十分な説明の上で、治療効果・副作用・忍容性に注意しながら治療しています。

抗リウマチ剤は、従来の飲み薬(メトトレキサートなど)に加え生物学的製剤(注射薬)も治療に用いています。

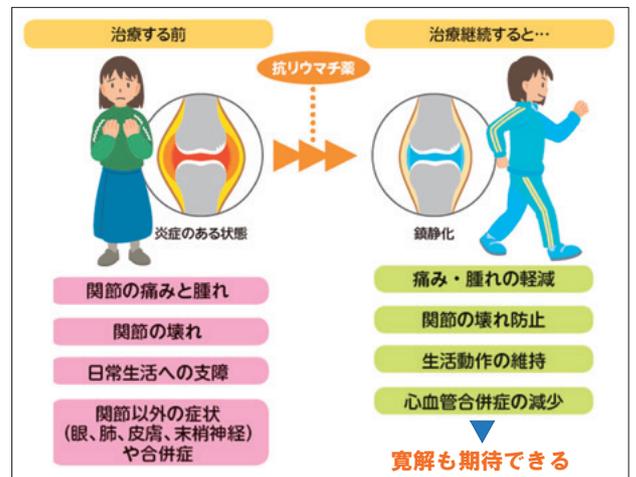
膠原病および関連した疾患は20種類以上ありあまりなじみがない疾患もあるかもしれません。主なものを表に示しました。疾患毎に特徴がありますが、原因として免疫の異常(例えば、自分の体に対する抗体である自己抗体の産生)があり、微熱・倦怠感といった症状、皮膚・関節およびいくつかの内臓が障害されることが比較的共通した症状です。かつては難病というイメージがありましたが、疾患の認知度が上がり検査法が

進歩したことで以前に比べ容易に診断に至るようになりました。また特筆すべきは治療法が発展したことで、急性期に重篤化することが少なくなり長期間安定した状態を維持できるようになっています。

障害される臓器は、皮膚・関節の他に、血液、肺、腎、消化管、中枢及び末梢神経、循環器系など多くにわたります。診断治療は、必要に応じ内科各科(血液、呼吸器、腎臓、消化器、脳神経、循環器)や皮膚科などと協力して行います。

なお「膠原病」という名前の病気はありません。表のような疾患をまとめて呼ぶ場合に使います。

図1 関節リウマチの治療について



メトトレキサートを服用される患者さんへ 第3版(日本リウマチ学会編)より

診療体制

リウマチ科の診療体制は、腎臓内科を兼ねている太田(日本リウマチ学会専門医・指導医)が外来および入院を担当し、入院時はそれ以外に腎臓内科所属の医師(主に専攻医など)が同時に受け持ちます。

関連した診療科との連携は重要で、前記の内科や皮膚科以外に、関節リウマチの関節変形は整形外科による治療、大

血管疾患では心臓血管外科、さらには治療の合併症にて糖尿病内科や感染症科など多くにわたります。当院では十分な経験と力量を持った診療科が揃っており、診療を行う上で恵まれた体制となっています。

整形外科との連携として一例紹介します。関節リウマチによる足指関節の脱臼にて高度に変形し(図2手術前)、足底

に皮膚潰瘍を伴った患者さんでした。当院整形外科にて両足指形成術を行い足指関節の変形が改善しています(図2:手術後)。患者さんは、手術後には歩きやすくなり足底の皮膚潰瘍が改善しました。手術前後の足X線写真と手術前の足指を示しています。

リウマチ膠原病診療においても多職種との連携を行っています。治療においては薬剤の治療のみならず、リハビリテーション、栄養管理、日常生活の指導が重要です。必要に応じて、関連したメディカルスタッフとともに進めてゆきます。

表 膠原病および関連した疾患

関節リウマチと類縁疾患
関節リウマチ、悪性関節リウマチ、RS3PE症候群、リウマチ性多発筋痛症
抗核抗体関連疾患
全身性エリテマトーデス(SLE)、強皮症、Sjögren症候群、混合性結合織病(MCTD)、多発筋炎/皮膚筋炎
脊椎関節炎
強直性脊椎炎、乾癬性関節炎、反応性関節炎、炎症性腸疾患関連関節炎
血管炎症候群
ANCA関連血管炎[顕微鏡的多発血管炎(MPA)、多発血管炎性肉芽腫症(GPA)、好酸球性多発血管炎性肉芽腫症(EGPA)] 結節性多発動脈炎、IgA血管炎、高安動脈炎、巨細胞性動脈炎
その他(自己炎症症候群)
成人発症Still病、ベーチェット病

臨床雑誌「内科」(2017年119巻2号 181ページ)より一部改

図2 当院の手術にて改善した足指関節変形(自験例:掲載許可をご本人から頂いています)



実績

最近の外來にて、関節リウマチ30数名、膠原病30数名など診察しています。外來は火曜日午後と木曜日午前に標榜していますがそれ以外の曜日に診察している場合があります。入院は、昨年度は関節リウマチ、全身性エリテマトーデス、ANCA関連血管炎など22名でした。

なお当科以外の科が関節リウマチ、膠原病の診療を行っている場合があります。

おわりに

当院の診療科としては、当科は始まったばかりであり至らないことが多々あるかと存じますが、よりよい診療を提供すべく努力してゆく所存に存じます。地域の皆様方、連携頂いている多くの先生方におかれましてはどうかよろしくお願ひ申し上げます。

なお、腎臓内科の診療は、4月から常勤医を一名増員し、従来以上の体制で引き続き行っていることを付け加えておきます。